

## 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解

### Views of school nurses about student nurses conducting sex education classes for elementary and middle-school students in the school setting

下野 純平<sup>1)</sup>・度會 裕子<sup>1)</sup>・中岡 恵美子<sup>2)</sup>・大塚 朱美<sup>1)</sup>・村山 より子<sup>1)</sup>

Junpei SHIMONO, Yuuko WATARAI, Emiko NAKAOKA,  
Akemi OHTSUKA and Yoriko MURAYAMA

**目的：**看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解を明らかにする。  
**方法：**小中学校に勤務する養護教諭54名を対象に、看護大学生が学校現場で性教育を行う利点や看護大学生に行ってほしい性教育の内容などについて、独自に作成した質問紙調査を実施した。  
**結果：**看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行う利点を「とても感じる」または「感じる」と回答した養護教諭は全体の44.4%であった。質問紙の自由記述を分析した結果、【年齢が近く医学的知識がある看護大学生の話は耳を傾けやすく相談しやすい雰囲気になる】など9カテゴリーが抽出された。  
**考察：**本研究結果から、看護大学生と養護教諭が協働して性教育を行うことへの実現可能性が示唆されたと考える。今後はより精密な調査を行い、具体的な性教育内容について検討していくことが必要である。

#### 1. はじめに

性に関する情報が多様化する現代において、数多くある情報の中から正しい情報を選択する能力を身につける必要があり、教育機関における性教育のさらなる充実した内容が望まれている<sup>1)</sup>。しかし、教育機関における性教育の重要性が唱えられている一方で、小学校から高校において性教育実施経験がある学校教員の79.6%が性教育への苦手意識を持っており、「子どもたちが得た知識をしっかりと理解し、軽はずみな行動をとらないような意識づけが難しい」などといった悩みを抱えていること<sup>2)</sup>が明らかとなっている。著者らが行った研究においても、

小中学校に勤務し性教育実施経験がある養護教諭は現代の子どもの生活背景に合わせた性教育の実践が難しいなどの悩みを抱えていること<sup>3)</sup>が明らかとなっている。また森本<sup>4)</sup>は、短期大学に通う学生181名を対象に調査を行った結果、高校時代までの性教育が役に立ったかという質問について、「あまり思わない」もしくは「全く思わない」と回答した者は全体の77.3%であったと報告している。

濱田ら<sup>5)</sup>は、看護大学生が小学生にピアアプローチ的性教育を行う際に、年齢差を身近なお兄さん、お姉さんの存在としていかすことによって、共感・支持といったピアアプローチが可能となり、児童の性に関する科学的情報への興味・関心を高め、生じたひとつひとつの疑問への対応が可能となったことを明らかにしている。このことから、学校現場で働く教員よりも児童生徒と年齢が近く、解剖生理学や母性・小児看護学などを学んだ看護大学生が、学校教員と協働して性教育を行うことは、より効果的に児童生徒の性に関する知識や関心、行動を身に付けることにつながり、ひいては学校現場において性教

連絡先：下野純平 jshimono@cis.ac.jp

1) 千葉科学大学看護学部看護学科

Department of Nursing, Faculty of Nursing,  
Chiba Institute of Science

2) 匝瑳市立吉田小学校

Sosa Municipal Yoshida Elementary School

(2017年9月8日受付, 2017年12月26日受理)

育を実践する教員の悩みを少しでも軽減できるのではないかと考えた。

岡田ら<sup>6)</sup>は、中学校の応急処置を学ぶ保健の授業に看護学生が教育の補助として参加したことで、看護学生はそれまでの中学生のイメージとは異なる特徴や個性、看護師として必要な教育的視点などを学ぶことができた<sup>7)</sup>と報告している。佐藤ら<sup>7)</sup>は、看護大学生は小学生に対してのこの授業を実践したことで多角的な学びを得たと報告している。このようなことから、学校現場で看護大学生が性教育を行うことは、養護教諭を目指す学生のみならず、看護師を目指す学生にとっても、看護の役割である教育指導の視点を学べる機会になり得ると考えられた。

以上のことから、看護大学生が学校現場で児童生徒を対象に性教育を行うことは、性教育を受ける児童生徒と、性教育を行う看護大学生、双方にとってよい影響がある<sup>8)</sup>と考えた。

そこで本研究は、小中学校に勤務する養護教諭を対象に質問紙調査を行い、看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する見解を明らかにすることを目的とした。

## 2. 研究目的

看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解を明らかにする。

## 3. 研究方法

### 3. 1 研究対象者

小中学校に勤務する養護教諭に対して口頭と文書にて調査の趣旨等を説明し、同意が得られた54名を研究対象者とした。

### 3. 2 調査期間

調査期間は2016年11月～12月であった。

### 3. 3 データ収集方法

無記名による自記式質問紙調査とし、質問紙は研究者が独自に作成した。研究者が地域の小中学校を管轄する窓口の研究の協力を依頼し、研究協力が得られた後、質問紙を持参した。質問紙は、研究協力が得られた窓口から養護教諭へ配布を依頼し、約4週間留め置いた後に一括回収した。55名に配布し、54名(回収率98.2%)から返却され、全てを分析対象とした。

### 3. 4 質問紙内容

#### 3. 4. 1 研究対象者の属性

年齢、養護教諭経験年数、養護教諭以外に所有している資格の有無と資格名。

#### 3. 4. 2 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解

「看護師を目指す大学生が学校現場で性教育を行うことに利点を感じますか」の項目に対して5段階リッカート法(①とても感じる、②感じる、③どちらともいえない、④あまり感じない、⑤感じない)で回答を求め、さらに自由記述欄に看護大学生に行ってほしい性教育の内容や選択した理由などの記述を求めた。

### 3. 5 分析方法

選択式の回答に関しては単純集計した。記述式の回答に関しては、看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解を示す内容を、一つの意味内容ごとに1コードとして抽出した。抽出したコードの類似性・相違性を検討し、抽象度をあげてカテゴリを生成した。研究の全過程において、養護教諭教育学研究者、小児看護学研究者、母性看護学研究者、学校現場で働いている養護教諭で協議し、再検討や修正を行い、真実性の確保に努めた。

### 3. 6 倫理的配慮

本研究は研究代表者が所属する大学の倫理審査委員会の承認を得て行った(承認番号:28-19)。研究対象者に対しては質問紙配付時に、研究協力を依頼した窓口より研究の目的、方法、研究協力は自由意思によること、断っても不利益は生じないこと、プライバシー保護の保証、研究結果は学会等で発表する予定であることなどについて文書と口頭で説明してもらった。質問紙は個人が特定できないように無記名式で、個々の質問紙は記入後封筒に厳封して回収した。質問紙の提出をもって研究協力の同意が得られたこととした。

## 4. 結果

### 4. 1 研究対象者の背景(表1)

年齢は20歳代が17名(31.5%)、30歳代が6名(11.1%)、40歳代が16名(29.6%)、50歳代が15名(27.8%)であった。養護教諭経験年数は1～39(平均17.1)年であった。養護教諭以外に資格を所有しているのは17名(31.5%)で、所有している資格は、中学校・高等学校教諭(保健)8名(14.8%)、看護師6名(11.1%)、准看護師1名(1.9%)、保健師1名(1.9%)、その他3名(5.6%)であった。

### 4. 2 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行う利点を感じるか(表2)

看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行う利点を「とても感じる」と回答した養護教諭は3名(5.6%)、「感じる」と回答した養護教諭は21名(38.9%)で、「とても感じる」または「感じる」と答えた養護教諭

は全体の44.4%であった。「どちらともいえない」と回答した養護教諭は24名(44.4%)であり、「とても感じる」または「感じる」と答えた養護教諭と同数であった。「あまり感じない」または「感じない」と回答した養護教諭は6名で、全体の11.1%であった。

#### 4. 3 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解

42名から自由記述欄への記載が得られた。自由記述への記載が得られなかった12名のうち、11名は「看護師を目指す大学生が小中学生を対象に性教育を行うことに利点を感じますか」の問いに「どちらでもない」と回答した養護教諭であった。

質問紙の自由記述を分析した結果、47のコード、9つのカテゴリーが抽出され、さらにカテゴリーが示す内容から、1) 看護大学生が性教育を行う利点、2) 看護大学生に行ってほしい性教育、3) 看護大学生が性教育を行うことへの懸念の3テーマに分類した(表3)。以下、【 】, 「 」の順にカテゴリー、コード、( )は前後の文脈をふまえた研究者による補足を示す。

##### 4. 3. 1 看護大学生が性教育を行う利点

研究対象者は、「大人からの話だと反発しがちだが、小中学生にとっては少し年上で、話に耳を傾けやすい存在だと思う」など【年齢が近く医学的知識がある看護大学生の話は耳を傾けやすく相談しやすい雰囲気になる】という見解を抱いていた。また、「養護教諭よりも専門的に勉強されているので、正しい知識を教えることができると思うので、よいと思います」や「看護、医療の専門的な立場から性について話してもらえるのは、教科書だけでは学びきれない具体的なことを知れるのでよいと思う」と【看護大学生からの性教育は教科書では学びきれない具体的な専門知識を学べるので有意義である】と考えていた。さらに、「(児童生徒を対象に性教育を行うことは) 学生さん達にも良い刺激になると思う」といった【性教育を行うことは看護大学生にとってよい刺激になる】という見解も抱いていた。

##### 4. 3. 2 看護大学生に行ってほしい性教育

研究対象者は、「専門的な知識はもちろん、道徳的な側面を兼ね備えて、自他ともに尊重し、命を大切にしよう」と意識づけられる性教育」といった【専門知識を含んだ命の大切さを意識づけられる性教育】を行ってほしいという見解を抱いていた。また、「子どもたちと年齢が近いことが学生さんの最大の強みだと思う」ことから、「参加型の授業」や「相談活動」、「グループワークやロールプレイ」といった【児童生徒が不安に感じていることに相談にのるような性教育】を行ってほしいと考えていた。

表1 研究対象者の背景 (N=54)

	n	%
年齢		
20歳代	17	31.5%
30歳代	6	11.1%
40歳代	16	29.6%
50歳代	15	27.8%
養護教諭経験年数		
1～5年目	16	29.6%
6～10年目	7	13.0%
11～15年目	3	5.6%
16～20年目	2	3.7%
21～25年目	7	13.0%
25～30年目	7	13.0%
31～35年目	9	16.7%
36年目以上	3	5.6%
養護教諭以外の所持資格 (複数回答)		
中学校・高等学校教諭 (保健)	8	14.8%
看護師	6	11.1%
准看護師	1	1.9%
保健師	1	1.9%
その他	3	5.6%

表2 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行う利点を感じるか (N=54)

	n	%
とても感じる	3	5.6%
感じる	21	38.9%
どちらともいえない	24	44.4%
あまり感じない	4	7.4%
感じない	2	3.7%

さらに、「病院実習で感じたことを行ってほしい」や「今まで成長してきた感じたことなどを含め、伝えてくださったら嬉しい」といった【病院実習や今まで成長してきた経験をいかした性教育】を行ってほしいと考えていた。

##### 4. 3. 3 看護大学生が性教育を行うことへの懸念

これまでの結果から研究対象者は、看護大学生が性教育を行うことに利点を感じ、看護大学生に行ってほしい性教育の内容も考えていることが明らかとなった。しかし一方で、「医師や助産師などからの指導は、医療現場などで関連して、子どもたちも専門的な人と思うが、学

表3 看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解

テーマ	カテゴリー	代表的なコード
看護大学生が性教育を行う利点	年齢が近く医学的知識がある看護大学生の話は耳を傾けやすく相談しやすい雰囲気になる (コード数8)	大人からの話だと反発しがちだが、小中学生にとっては少し年上で、話に耳を傾けやすい存在だと思う。 同年代、また自分の少し上の先輩の話す悩みや与えてくれる情報は、「これは理解しておくべきだ」という内容に生徒も耳を傾けやすく、相談しやすい雰囲気にもなると思う。 医学的知識で、児童の年齢に使い学生が話してくれると、児童の受け止め方が違うように思える。
	看護大学生からの性教育は教科書では学びきれない具体的な専門知識を学べるので有意義である (コード数4)	養護教諭よりも専門的に勉強されているので、正しい知識を教えることができると思うので、よいと思います。 看護、医療の専門的な立場から性について話してもらえるのは、教科書だけでは学びきれない具体的なことを知れるのでよいと思う。
	性教育を行うことは看護大学生にとってよい刺激になる (コード数2)	(児童生徒を対象に性教育を行うことは) 学生さん達にも良い刺激になると思う。
看護大学生に行ってほしい性教育	専門知識を含んだ命の大切さを意識づけられる性教育 (コード数14)	自分の命を前向きにとらえることができるような性教育。 専門的な知識はもちろん、道徳的な側面を兼ね備えて、自他ともに尊重し、命を大切にしよう意識づけられる性教育を行ってほしい。 性教育=心の教育、人間教育と理解している。命の大切さを含めた性教育になるといいなと思う。
	児童生徒が不安に感じていることに相談にのるような性教育 (コード数7)	小学校高学年に対して、成長に伴う男女のかかわり方や心と体の発達について、グループワークやロールプレイなどを行い、指導してほしい。 中学生に対しては、体の発達について悩みを抱えている子どもも多いと思うので、相談活動や自分だけが悩んでいるわけじゃないと思えるような教育をしてほしいです。 児童生徒が参加型の授業などを行ってくださるとわかりやすく、興味関心が高まるのではと思います。
	病院実習や今まで成長してきた経験をいかした性教育 (コード数6)	子どもたちと年齢に近いことが学生さんの最大の強みだと思うので、子どもたちが素直に疑問に思っていること、不安に感じていることを相談にのるようなスタイルで関わってほしい。 看護学校での経験をいかした子どもたちの心に響く性教育。 病院実習で感じたことを行ってほしい。 年齢も子どもたちに近いですし、今まで成長してきたことなどを含め、伝えてくださったらうれしいです。
看護大学生が性教育を行うことへの懸念	現場を知らない看護大学生に性教育を行うのは難しい (コード数3)	医師や助産師などからの指導は、医療現場でなど関連して、子どもたちと専門的な人と思うが、学生となるとどうだろうかと思う...。 看護師を目指す大学生は、現場を知らないので、教科書通りになってしまうかな、と思います。
	児童生徒と年齢に近い大学生が性教育を行うことで悪影響を及ぼすのではないかと心配がある (コード数2)	自分たちと年齢が近いため、からかいやふざけなどが出ない雰囲気づくりも大切になってくるのではないかなと思います。 単発的であること、年齢が近いことが悪い方向に影響してしまうのではないかと心配に思う。
	看護大学生が性教育を行うには事前に学校教員と十分に話し合う必要がある (コード数1)	学校により子どもたちの実態、性に関する関心等に差があるので、各学校の養護教諭等と話し合いを十分に行ってから実践してほしい。

生となるとどうだろうかと思う」や「看護師を目指す大学生は、現場を知らないで、教科書通りになってしまう」と、【現場を知らない看護大学生に性教育を行うのは難しい】という見解を抱いていた。また、【児童生徒と年齢が近い大学生が性教育を行うことで悪影響を及ぼすのではないか心配がある】や「学校により子どもたちの実態、性に関する関心等に差がある」ことから【看護大学生が性教育を行うには事前に学校教員と十分に話し合う必要がある】という見解も抱いていた。

本テーマは、6コード、3カテゴリで構成されたが、そのうちの5コードは、「看護師を目指す大学生が学校現場で性教育を行うことに利点を感じますか」の問いに対して、「どちらともいえない」と回答した養護教諭からの得られたものであった。

## 5. 考察

本調査の質問紙回収率は98.2%と高く、このことから、調査地域の小中学校に勤務する養護教諭が抱く、看護大学生が学校現場で小中学生に性教育を行うことに対する見解を明らかにすることができたと考えられる。特に、本調査において、看護大学生が小中学生を対象に性教育を行う利点を「とても感じる」または「感じる」と回答した養護教諭は全体の44.4%であった。さらに、自由記述において【年齢が近く医学的知識がある看護大学生の話は耳を傾けやすく相談しやすい雰囲気になる】や【看護大学生からの性教育は教科書では学びきれない具体的な専門知識を学べるので有意義である】と、看護大学生が学校現場で性教育を行うことで小中学生に対して利点があると考えていた。このように看護大学生が性教育を行う利点を実際に学校現場で働いている養護教諭も認識しており、看護大学生と養護教諭が協働して性教育を行うことへの実現可能性が示唆されたと考えられる。

また研究対象者は性教育を心の教育や人間教育と捉え実践していることが窺え、看護大学生にも専門的知識を学んでいることや小中学生と年齢が近いことをいかしたうえで、命の大切さを意識づけられる性教育を求めていることが明らかとなった。青柳ら<sup>7)</sup>は、高等学校に勤務する養護教諭が認識している性教育の課題の一つとして人間教育としての性教育の確立を報告しており、本研究対象者も性教育を人間教育と捉えていたことから、養護教諭の共通認識として性教育は単なる性器や性感染症に関する教育ではなく、道徳的な側面を兼ね備えた教育であると考えられた。このようなことから、看護大学生が学校現場で性教育を行う際には、養護教諭の性教育に対する思いを理解し、協働していくことが必要であると考えられた。しかし本調査において、養護教諭が看護大学生に求める性教育の具体的な内容を把握するまでには至らなかった。村上ら<sup>2)</sup>は、小学校から高校の性教育実施経

験のある学校教員に質問紙調査を行った結果、小学校教諭は性に関する項目は全て必要と考えていたが、中学・高等学校教諭はその時の身体発育や心の状況の変化に合わせた項目を必要としていたと報告している。森本<sup>4)</sup>は、児童生徒が性に対して興味本位だけで経験しないように、発達段階に応じた指導をしていくことが必要不可欠であり、小学校では思春期の男女の体の違いを知り、男・女としての自己認識を深め、中学・高校では生命の誕生の尊さを感じ真剣に性について考え、責任をもった行動ができる力を育むことが必要であると述べている。さらに小川ら<sup>1)</sup>は、短期大学生を対象にした調査結果から、対象者の性に関する現状を把握し、課題を明らかにすることで、ニーズに合った授業構成の構築が可能となると述べている。このようなことから、看護大学生に求められる具体的な性教育内容は対象となる児童生徒の発達段階やその地域の特徴などによって異なることが考えられ、今後はより精密な調査を行い、具体的な性教育内容について検討していくことが必要であると考えられた。

本調査において「看護師を目指す大学生が小中学生を対象に性教育を行うことに利点を感じますか」の問いに「どちらともいえない」と回答した養護教諭が全体の44.4%であり、このうちの45.8% (11名)からは自由記述欄への記載が得られなかった。この要因の一つとして、質問紙内で性教育の具体的な内容については記さなかったため、研究対象者によっては看護大学生が行う性教育の具体的な内容を想像することが難しかったと考えられる。その中で、看護大学生が性教育を行うことへの懸念のほとんどは、「看護師を目指す大学生が小中学生を対象に性教育を行うことに利点を感じますか」の問いに「どちらともいえない」と回答した養護教諭から抽出されたコードで構成されており、性教育の具体的な内容を提示した場合には、看護大学生が性教育を行うことへの懸念がさらに増えることや懸念の内容がより多岐にわたることも考えられる。また、研究対象者は【児童生徒が不安を感じていることに相談のするような性教育】を求めている。森本<sup>4)</sup>は、教える側も教えられる側も、性の問題をごく身近な生活の中にある自分の問題としてとらえ、考えていけるような授業形態、すなわち一方的な講義ではなく、対話して考えていけるような性教育が今後必要であると述べており、本研究も同様の結果を得た。このようなことから、今後は上述したように、より精密な調査を行い、具体的な性教育内容について検討していくとともに、看護大学生が学校現場で性教育を行う際には事前に学校教員と性教育の具体的な内容や授業形態、児童生徒と年齢が近い看護大学生が性教育を行うことで悪影響を及ぼさないような工夫を共有・検討していく必要があると考えられた。

## 6. 本研究の限界と今後の課題

今回の調査は、一地域のみでの実施であったため、結果の一般性を述べることはできない。また本調査において、研究対象者の養護教諭経験年数と、自由記述から抽出された看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する養護教諭の見解との関連を検討するまでには至らなかった。各カテゴリーを構成したコード数から、養護教諭の経験年数によって、看護大学生が学校現場で小中学生を対象に性教育を行うことに対する見解に違いが生じる可能性も考えられる。今後は、養護教諭の経験年数の違いにも注目して研究を行っていくことが課題である。

## 7. 結論

質問紙調査の回収率は98.2%と高く、調査地域に勤務する養護教諭特有の見解を明らかにすることができ、看護大学生と養護教諭が協働して性教育を行うことへの実現可能性が示唆された。調査地域における養護教諭は性教育を心の教育や人間教育と捉え実践していることが窺え、看護大学生にも専門的知識を学んでいることや小中学生と年齢が近いことをいかしたうえで、命の大切さを意識づけられる性教育を求めている。しかし一方で、対象となる児童生徒の発達段階やその地域の特徴などを考慮した性教育の具体的な内容を検討することまでには至らなかった。また、性教育の内容が具体化することで、養護教諭が抱く看護大学生が性教育を行うことへの懸念がさらに増えることや懸念の内容がより多岐にわたる可能性も示唆された。今後はこれらのことに注目し、より精密な調査を行い、具体的な性教育内容について検討していくことが必要である。さらに、看護大学生が学校現場で性教育を行う際には事前に学校教員と性教育の具体的内容や授業形態、児童生徒と年齢が近い看護大学生が性教育を行うことで悪影響を及ぼさないような工夫を共有・検討していく必要があると考えられた。

## 謝辞

お忙しい中、研究にご協力いただきました養護教諭の皆様にご心より感謝いたします。なお、本研究は、第16回ウーマンズヘルス学会学術集会において発表したものに加筆修正したものである。

## 引用文献

- 1) 小川真由子, 引田郁美: 大学における性教育についての一考察 - 短期大学生における性意識と性行動の調査から -. 鈴鹿大学短期大学部紀要, 36, 75-85, 2016.
- 2) 村上道子, 赤井由紀子: 学校現場で助産師が行う性教育のあり方 - 教員の質問紙調査から -. 母性衛生, 57 (2), 410-414, 2016.
- 3) 大塚朱美, 下野純平, 中岡恵美子, 他: 小中学校に勤務する養護教諭が抱える性教育に対する思い. 日本養護教諭教育学会第25回学術集会抄録集. 金沢. 2017-10. 日本養護教諭教育学会.
- 4) 森本美佐: 母子保健対策としての性教育 - 思春期からの性教育の評価と課題 -. 奈良文化女子短期大学紀要, 46, 113-119, 2015.
- 5) 濱田維子, 小林益江, 佐藤珠美, 他: 看護大学生ピアエデュケーターによる小学生への性教育活動の試み - 年齢差のある対象へのピアアプローチとその評価 -. 日本赤十字九州国際看護大学 intramural research report, 5, 10-16, 2006.
- 6) 岡田摩理, 中垣紀子: 中学校の保健の授業に教育の補助者として参加した看護学生の学習効果. 日本小児看護学会誌, 25 (2), 61-67, 2016.
- 7) 佐藤いずみ, 中村幸代, 竹内翔子, 他: 小学生を対象としたいのちの授業を行った看護学生の学び. 横浜看護学雑誌, 10 (1), 36-41, 2017.
- 8) 青柳千春, 黒岩初美, 丸山幸恵, 他: 高等学校養護教諭が感じている性教育に関する困難感と今後の課題. 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 51, 67-76, 2016.